

世界遺産アカデミー認定講師 File No.23

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当て、お話を伺います。第23回の今回は、現役の旅行添乗員で、かつてはダンスのインストラクターという異色の経歴を持つ、高橋聡美（たかはし・さとみ）さんです。

——世界遺産に魅了され 旅行業界へ転職

現在は学生を対象とした3級対策のガイドランスを担当しています。流通経済大学では先日、社会学部国際観光学科の1、2年生を対象に導入的な基礎ガイドランスを実施しました。中には検定認定者もいて、私より詳しい学生もいるかなとドキドキしましたが、皆さん真剣に聴いていただけて、お話しが良かったです。1,031件もの世界遺産をどこからどのように勉強したら良いのか、学生たちは悩むところですが、エリアやテーマ別に分けて、自分の好きなものから楽しみなが

ら学習していくことを奨めています。私の本業は、関西方面へ向かう修学旅行や会社の慰安旅行などを主に担当している旅行添乗員ですので、その経験も踏まえて、皆さんからのご質問にお応えしています。目白大学社会学部の学生さんたちからは、世界遺産検定は観光現場ではどのように役に立ちますか、と積極的なご質問をいただきましたし、亜細亜大学経営学部の学生たちからは、旅行業界のエピソードが参考になった、検定を活かした就職活動の仕方がわかった、など、多くの好意的なフィードバックをいただきました。バスガイドさんが観光地でお話しされるような専門的な解説から、わざ



ワイバード氏の鍾乳洞に対する深い愛情と、“レイク・ケーヴ”への浪漫を語られる、高橋さん

と横道に逸れることもよくあります。たとえば、法隆寺でしたら、円柱のエンタシス形式に注目することで、パルテノン

神殿との共通点を伝えられ、世界遺産の広がりをご紹介することができます。

前職はチャリーディングのインストラクターとして活動していましたが、オーストラリアに魅了され、自然豊かな大地への憧れが高まりました。世界遺産を勉強しようと思った直接のきっかけは、沖縄の園比屋武御嶽石門（そのひゃんうたきいしもん）です。ひっそりと佇んでいる史跡がなぜ登録されたのか、不思議に思ったのです。その神秘性を知り、捉え方ががらりと変わりました。世界遺産から新たに増えてくる繋がりを感じ取ってもらえるような、一步踏み込んだガイドランスを心がけていきたいです。

——オーストラリアは 第2の故郷です。

大自然が好きなので自然遺産、特にオーストラリアの『ウルル、カタ・ジュタ国立公園』の有名なエアーズロック（ウルル）が好きです。何度訪れても感動的な場所です。ご存じの通り、エアーズロックは、先住民アボリジニの文化を守るため登ることは禁止されています。残念ながら、日本人ツアー客が現地マナーを無視して登っている問題を、現地の方々からお聴きしました。国立公園ですが、入場料の一部がアボリジニの人々の生活の糧となっているため、注意案内（「登ら

ないでください」と日本語表記もあります）が立てられているだけで、具体的な罰則は設けられていないようです。エアーズロックへは夕陽の情景を楽しむ1泊か日帰りのコースが主流ですが、なぜアボリジニがそこを聖地として崇めているのか、短い時間で感じ取るのは難しいです。私が訪れた際は大雨が降り、エアーズロックから滝が流れ落ちました。

また、『クイーンズランドの湿潤熱帯地域』や『グレート・バリア・リーフ』もお奨めしますが、もっとも素晴らしいのは、『ブルー・マウンテンズ地域』の構成資産、「ジェノラン・ケーヴ」です。名所となっている岩山「スリー・シスター

ズ」だけの観光をされる方が多いですが、ちょっと足を延ばすと、世界最古の鍾乳洞であるジェノラン・ケーヴに行くことができます。約3億5,000年前にできたと言われる鍾乳洞は、とにかく巨大で、まるでひとつの山が聳えているかのような場所。内部は、ストロマトライトがとても美しく光に反射して、幻想的な世界を見せてくれます。ジェノラン・ケーヴを訪れるためには、現地ツアーに申し込む必要があり、ブルー・マウンテンズから車で約20分かかります。このジェノラン・ケーヴには、あるエピソードが伝えられています。ジェノラン・ケーヴの

発見者、ジェイムス・ワイバード氏は、鍾乳洞の一般公開に強く反対していましたが、オーストラリア政府はこの地の観光開発を急速に進め、鍾乳洞と周辺の自然環境に大きな影響が及んでしまいました。一般公開式当日、ワイバード氏は、政府から招待を受けてはおりませんでしたが、公けの場にはそぐわない繋ぎ服にヘルメット、懐中電灯を携えた姿で現れ、こう言ったそうです。「私は本日より40年間のケーヴィストとしてのキャリアを終える。そして、ジェノラン・ケーヴ以上に素晴らしく、シドニー・フェリーで1周廻れるほどの水を混えた鍾乳

洞“レイク・ケーヴ”を発見したが、いっさい公開することはないだろう。あなた方の自然破壊行為に激怒しているからだ」と。その後90年間、その“レイク・ケーヴ”は、未だに見つかっていません。この新たな鍾乳洞の存在が真実かどうかは謎ですが、私がもし見つけたとしたら、彼同様に心の奥底にしまっておきたいと思います。